



CISV Japan  
Building global friendship

# CISV日本協会ニュース2024

CISV *educates* and *inspires action* for a more *just* and *peaceful world*.

CISVは、より公正で平和な世界へ向けて、意欲的に行動する人々を育てます

## 会長挨拶

CISV日本協会会長 岩崎統子



2024年度のCISV活動へのご参加、そしてご支援をありがとうございました。お陰さまで、大きな事故や問題もなく無事に1年が終了いたしました。これもCISV日本協会関係者のみならず、CISVの目的に共感してご協力くださいました皆さまのお陰と感謝申し上げます。

名古屋で2023年10月に開催されたJAM(Japan Annual Meeting)から、2024年度の活動が始まりました。会合では2024年度に開催予定のプログラムや諸行事の準備も含め、活発な話し合いや研修が行われました。

2024年3月にはアジア太平洋地域研修(Asia Pacific Regional Workshop)が8年ぶりの日本開催となりました。会場の国立オリンピック記念青少年総合センターには18の国と地域から約200名が集まり、盛況のうちに終了いたしました。ただ、お花見も楽しみにしていた海外からの参加者に、満開の桜を見ていただけなかったのは残念です。国際理事を退任してから、私には久しぶりの参加でしたが、最近の国際協会の動向やアジア太平洋地域の様子もじかにお聞きし、また旧交を温めることもでき有意義な6日間でした。

今年度はパンデミックも息をひそめて、夏のプログラムが日本をはじめ世界各地で多く開催されたことは嬉しい限りです。6月末から16の国際プログラムへの派遣が始まり、関東、関西、東海の3支部で日本大会を開催し、国内外のジュニア部会事業も進めることができました。8月にはオランダで国際会議(Global Forum)と国際ジュニア会議(International Junior Branch Conference)が同時に開催され、日本からも参加し国際規模で活動するCISVに相応しい活気あふれる年が戻りました。

CISVが1950年に米国で誕生してから73年が経過しました。ロシアのウクライナへの侵攻、パレスチナ地域での争い、民族間の内戦などが続き、平和な世界とは程遠い現状に、CISV創立の経緯や、理念・目的を思いださずにいられません。そして創始者ドリス・アレン博士と7歳の息子さんとの会話が聞こえてきます。

I recall the statement of my son at the age of seven,  
“There won’t be any more wars, will there, mother?”  
What could a mother answer that would give a child hope and courage for the future?  
I answered, “We don’t want any more wars, do we?”  
We’ll have to do everything we can do so that we will not need any more wars.”  
That satisfied the child, and he walked down the hall and out the door to play with his friends.  
He had a lilt in his step. But for me, I was rooted to the floor.  
For me, it was a life commitment: “We’ll have to do everything we can...”

CISVの掲げる目的に沿い、広い世界に目を向けて、一人一人が出来ることをしていくことこそ、私たちに求められていることではないかと、改めて強く考えます。2025年度にCISV活動がさらに盛んになることを願っています。



CISV Japan  
Building global friendship

# CISV日本協会ニュース2024

## APRW(Asia Pacific Regional Workshop)報告

実行委員長 千田奈穂



2024年3月19日～24日に国立オリンピック記念青少年総合センターにてAPRW & JASPARCが開催されました。日本開催は2016年以来8年ぶりでしたが、18の国・地域から総勢約200名が参加し、前回同様大盛況のうちに終えることができました。

今回開催されたワークショップ・会議は①Essential of Peace Education、②Train the Trainer、③リスクマネジメント、④ユースミーティング、⑤セミナーキャンプ、⑥ステップアップ、⑦APAC(Asia Pacific Annual Conference)、⑧JASPARC(Junior Asia Pacific Regional Conference)です。

APRWと同時開催のJASPARCは、年に一度、アジア太平洋地域のJB(CISV国際プログラム経験のある参加者たち)が一堂に会し、自国での活動を共有したり、自国に活かせるような新たな学びを得ることができる貴重な機会です。アジア太平洋地域の仲間とのセッションやディスカッションを通して、友情を温め、今後のJB活動について議論しています。

日本協会会員もたくさん参加し、各国からの参加者達と共に新しい知識を得たり、情報交換をし交流を図るなど、充実した時間を過ごせたことと思います。

今回のテーマはSAKURA-MEBUKI~です。ここで芽吹いた友情や経験が、見事に花開くよう、これからのCISV活動の活性化に繋がってくれたら嬉しく思います。

フェアウェル・パーティーで、MSC(Member Support Coordinator)のBobitさんより、「開催地の支部だけでなく、全支部が協力して開催にあたっていたのが素晴らしかった」と好評をいただきました。また、参加者の皆さんからも、感謝の意が伝えられました。今回の開催にあたり、各分会・支部から選出された実行委員(21名)と、全支部からご協力いただいたボランティアの皆さんに、大変感謝しております。

とりわけ実行委員は、長い準備期間があり、毎月の定例ミーティングに参加し(夜中までかかってしまったこともありましたが)、各自の貴重な時間を割いて開催のために力を注いでくれました。開催期間中も、朝から晩まで会場を走り回り、トレーナーが円滑にワークショップを進められるように、また、参加者が充実した経験ができるように頑張ってくれました。皆様のご協力がなければこのような大規模な国際行事の開催は不可能でした。本当にありがとうございました！

次回のAPRW&JASPARCは、2025年4月3日～8日にタイのバンコクで開催されます。日本ではちょうど桜～SAKURA～の季節ですね。

今回日本で芽吹いたものを花開かせ、多くの皆さんとタイでお会い出来たら嬉しいです。



CISV Japan  
Building global friendship

# CISV日本協会ニュース2024

## 関東ビレッジ開催報告

ビレッジディレクター 五十嵐朝青



期間: 2024年8月3日～25日      開催場所: 国立信州高遠青少年自然の家

参加国:

デリゲーション: アメリカ、イタリア、エジプト、イギリス、カナダ、スペイン、デンマーク、ドイツ、ポルトガル、日本

ジュニアカウンセラー: オーストリア、カナダ、イタリア、ポルトガル、イギリス、日本

Origami Village にディレクターとして参加し、約20年ぶりにその活動に深く関わる中で、改めてCISVが提供する「learning by doing」の力強さを実感しました。

一般的な学校教育とは異なり、基本的には何一つ教えることなく、アクティビティを含め、寝食を共にすることで、子どもたちに成長の場を提供し、その影響は一過性のものではなく、長期的に彼らの人生に刻まれていきます。

現在、世界中で争いごとが多発し、分断が進む中で、異なる文化や価値観を持つ人々との共生を学ぶことがますます求められています。CISVの価値は一層高まっていると感じます。

大会中で、私にとっての挑戦は、スタッフと共にどれだけ参加者の子どもたちに、多くの学びの場を作り出せるかという点でした。時には、予測できない出来事に直面する場面もありましたが、そうした状況こそが何かを生み出す力になり、カオスの中で冷静さを保ちながら柔軟に対応することが重要だと感じました。

大会という一夏の経験が、子どもたちの人生にとっての平和への種となり、彼らが将来のリーダーとして成長していくことを心から楽しみにしています。

この大会を作り上げるにあたり、インターナショナルスタッフを含めたスタッフのみんな、大会委員会のみなさま、ホームステイ先の方々、ご寄付をくださったみなさま、オープンデーにいらしてくださったみなさまなど、支えてくださったすべての方に心から感謝申し上げます。CISVを通じて多くの子どもたちが平和の担い手となり、穏やかで調和の取れた未来を築くことを願っています。

最後に、受け入れあつての派遣にもなりますので、日本の子どもたちがどんどん海外のプログラムに参加できるよう、引き続き日本の大会へのサポート、またスタッフ、ディレクターとしてのご参加も心からお願いいたします。



CISV Japan  
Building global friendship

# CISV日本協会ニュース2024

## 関西ユースミーティング開催報告

ユースミーティングディレクター 柴田優

期間:2024年8月17日～31日 開催場所:吉野宮滝野外学校

参加国:アメリカ、イタリア、スウェーデン、デンマーク、ノルウェー、フィリピン、ブラジル、日本

関西支部YM日本大会は、奈良の吉野町にある宮滝野外学校で8/17～31の日程で行われました。

キャンプ名は「Shizuku camp」。キャンプサイトの真横に大きな吉野川が流れる大自然の中で過ごす立地であったため、人間が生きるのになくてはならない「水」について、それぞれの国の水の使われ方の違いを共有し考えを深めるにはこれ以上ない環境でした。

また、雨上がりに葉っぱの上で輝く小さな雫が12歳、13歳の彼らの瑞々しい姿と重なり、たった1滴の雫でも8カ国32人の雫が集まったら大きなパワーになるのだということを、キャンプを通じて感じてもらいたいという思いで名付けました。

今回初めてCISVが使用する施設ということや、他の団体の方が宿泊しているということで、CISV独自の文化(朝起こすときの騒音など...)を施設の方に理解していただくことがなかなか難しく、色々な制約を受けることがありました。他のキャンプとは勝手が違うということでリーダー達から苦情を言われたらどうしよう、と不安がよぎりましたが、できること、できないことを正直に彼らに伝えたら、「スタッフたちは十分キャンプのために

頑張ってくれているんだから大丈夫、そんなこと気にしないで!」と笑顔で言ってもらえて心の底から安心しました。リーダーとスタッフ、ユースはそれぞれ役割が違とはいえ、みんなでキャンプを作り上げているのだということを再認識するきっかけとなったし、パーフェクトでない課題の多いキャンプだからこそ、みんなで助け合ってより良いものにしていこうという思いが参加者全体に浸透し、キャンプを成功させるというゴールに向かって集中できたのかなと思います。

ほぼ全員が経験値の高いリーダーであったため、キャンプ中は様々な場面で彼らに助けてもらいました。大型台風の襲来で急遽キャンプアウトが一日早まるという事態にも、冷静にスタッフの判断を受け入れ、支部や親御さんとやり取りしてもらえて本当に心強かったです。

多方面からのあたたかいサポートの中、参加したユースたち一人ひとりが毎日を精一杯楽しんで、友情を育み、初めはなかなか馴染めなかった子どもたちが、日に日に輝く笑顔に変わっていく姿を見ることができました。関わっていただいた皆様に感謝の気持ちでいっぱいです!ありがとうございました。





CISV Japan  
Building global friendship

# CISV日本協会ニュース2024

## 東海ユースミーティング開催報告

ユースミーティングディレクター 越部真

期間: 2024年8月4日～11日 開催場所: さもと館(愛知県)

参加国: アメリカ、イタリア、カナダ、日本、ブラジル、フィリピン

昨年は東海支部でユースミーティング(以下YM)のスタッフとして参加させていただき、今年も同じく東海支部で、今度はディレクターとしてYMに参加させていただきました。

昨年スタッフとして参加したときは、チャレンジしたいことが多く、楽しみが気持ちの多くを占めていましたが、ディレクターとして参加した今年は、楽しみとプレッシャーの比率が半分半分でした。何をプレッシャーに感じていたかを考えてみると、去年のYMが上手くいった分、今年同じような成功を得られるかということ。そして参加者、リーダー、スタッフが参加してよかった、また参加したいと思えるキャンプを作れるか、という2つだったように思います。

また、去年はスタッフの年齢層が高く、全員経験者、ほとんどが旧知の仲、という環境でキャンプを行ったので、多少失敗してもCISVから完全に手を引く人はいないと思えました。一方今年は、CISV初参加のスタッフがいて、ジュニアスタッフは2名もいて、という状況で、もし万が一このキャンプが嫌な思い出になったら、この若いスタッフたちはもうCISVに戻って来られないかもしれない。そしてその原因が自分だったら・・・とネガティブに考えたりしていました。

ところがキャンプインしてみれば、スタッフ全員が自分の役割を積極的に、時に助け合いながらこなし、そして何よりもアクティビティにも楽しそうに参加していました。スタッフだけでなく、参加者、関係者全員が、意識的にも無意識的にもお互いの為に全力を尽くしてくださったことこそが、今回のYMを成功に導いた鍵だと思います。

今回のYMのテーマであるCoordinatesU&Iでは、「自分だけでなく相手がいてこそより深く自分が分かる」「相手がいるからこそ分かる自分がいる」という意図を、数学や天体物理学で使うような座標上の点と点の関係性を比喻に使うことで表現しています。私にとってこのYMは、自分一人で出来ることの限界とともに、素晴らしいチームと共にあれば自分はここまで出来るのだ、ということを知ることができた機会となりました。

参加者、そして協力してくださった皆様が、これまでの出会い、そしてこれからの出会いをより大切にしてくれるきっかけに、我々のCoordinateU&IYMがなれば、こんなに嬉しいことはありません。





CISV Japan  
Building global friendship

# CISV日本協会ニュース2024

## 2024年度JB国内活動報告

JB部会長 榎本桜子

2024年度のジュニア部会（JB）の活動は、昨年度同様、ほとんどが対面で実施されました。また、去年とは異なり、開催形態としては完全にコロナ禍前の状態に戻した形で行いました。

最初の国内行事は3月に、九州支部JBが佐賀県波戸岬少年自然の家でWinter Schoolを開催しました。テーマは「トランプ」。私たち一人一人に意味があり、欠けてはならない存在であるということ、騒がしい世界の中で私たちにできることは何か、などについて、アクティビティやセミナーを通じて学んでいこう、という意味を込めました。数年ぶりの九州支部単独開催ということで、JB内でも盛り上がりました。

5月には関西支部JBが、大阪国際ユースホステル 大阪府羽衣青少年センターで「パズル」というテーマでYouth Seminarを開催しました。セッションを通して参加者は、どんな関係でCISVに入ったのか、CISVが自分にどのような知識経験を生んでくれたかなどを共有し、CISV以外の関係性も考え、繋げていき、最後に出来上がるパズルを組み合わせたいというスタッフの思いが込められたキャンプでした。キッズ参加行事とは異なり、高校生以上でより深い意見交換ができたと思います。

8月には「Hero」というテーマのもと、東海支部JBが三重県立熊野少年自然の家でSummer Schoolを開催しました。ヒーローに正解像はなく、それぞれの個性を発揮できる時にヒーローが生まれます。ヒーローにそれぞれの輝き方があるように、参加者にはアクティビティやセミナーを通じて、自分のヒーロー像を思い描き、また、自分の価値観を知ってほしいという思いが込められていました。地震が心配されていた時期ではありましたが、安全に配慮しつつ、キッズたちが伸び伸びと自分のヒーロー像を見つけることができました。

8月下旬には、NJBC&Wが行われました。台風の影響で今年度はカンファレンスのみ、かつオンラインでの開催となりました。例年とは異なる形ではありましたが、無事に次年度の部会長やJBルールの改定などを行うことができました。

以上をもって活動報告とさせていただきます。皆様の協力なしには、こうして全ての活動を成功という形で収めることはできませんでした。いつも私たちJBの成長と挑戦を応援してくださる皆様に厚く御礼申し上げます。来年度以降もさらなる成長を遂げてまいりますので何卒よろしく願いいたします。





CISV Japan  
Building global friendship

# CISV日本協会ニュース2024

## 国際色豊かに！

### 2024年度Sr.NJR 能勢悠雅

今年、モンゴル、日本、オランダで開催された3つの異なる国際JB行事は大盛り上がりを見せました!!私たちJBにとっては、TEA(東アジア会議)、JASPARC(アジア太平洋ジュニア会議)、そしてIIBC(国際ジュニア会議)によって、仲がより一層深まった年でもありました。参加する日本のJBも増加し、その経験を活かして、ビレッジなど日本大会スタッフ等として、活躍をみせてくれました。その中で最も深く記憶に残っているTEA(東アジア会議)について紹介したいと思います。

Teamwork of East Asia (以下TEA)は、3月初旬のモンゴルで、雪の積もった真っ白な大草原と動物たちに囲まれて開催されました。私はプランナーとして参加しましたが、気温-30°と厳しい状況下でも、国境なく皆が団結し、互いに高めあうことができたことを確信しています。TEAは、自分達の置かれた環境を理解し、他を理解しようという共通理解のもと、単なる文化交流ではなく、もっと深い意味での理解を目指して、学びあえる「場」です。それがTEAの魅力だと思います。言語も違う、食、スタイル、気候にも違いがある5カ国。しかし、「茶」という言葉がこの5カ国で発音、漢字が同じであるように、個としてもさまざまに共通点がある。そんなTEAの国々であるからこそ、深いレベルでのつながりを実現し、次世代に繋げていけるのではないかと今回のTEA

を経験し感じました。モンゴル開催だったことで、ビザの関係で渡航が制限されているモンゴルの子供たちが沢山参加出来たことも、大きな成果でした。

2024年度は、心を燃やしたJBたちが活発に活動しました。TEAの国同士、互いにできることを今後も模索しようと奮闘しておりますので、2025年度の活動も注目です!

2024年度国際JB活動の開催や参加に際して、サポートいただいた皆様に感謝申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願い致します。



## 2024年度を振り返って

### 国際理事 大門樹久世

この夏コロナ後初めて対面での国際会議が開かれました。前回の2018年はGlobal Conferenceとして各国、各支部の代表が集まりましたが、今年度はGlobal Forumと名前を変えて、各国代表のみが参加する形になりました。規模は縮小されたものの、対面で開催された意義は大きく、各国の代表が一堂に会したミーティングでは、活発な意見交換が行われ、それぞれの国の想いをリアルに感じる事ができました。コーヒープレイクで列に並んでいる時などに交わしたちょっとした会話を通して、大きな会場では聞けない本音についても知ることができました。

アジア太平洋地域では、3月にAPRWを8年ぶりに日本で開催しました。コロナ後本格的に開催した最初のAPRWでしたが、前回は上回る参加者を得て、盛大に行われました。トレーニングはもちろんですが、遠足でも小グループに分かれて日本の文化を体験してもらい「とてもよい時間を過ごせた」との感想をもらいました。

APRWで研修を受けた参加者が中心となって、国内の研修においても、しっかりした計画に基づくリーダー研修が行われました。4支部統一のリーダー選考基準を作ろうとする試みも始まり、若い世代がAPRWで得た刺激や知識を日本国内の活動に活かそうとしていることを大変喜ばしく思います。

昨年度、ようやく派遣・開催を実現でき、このまま順調に進んで

行って欲しいと祈るような気持ちでスタートしましたが、冬派遣の準備を始めた矢先に中止の連絡。まだコロナ禍の影響が色濃く残っていることを実感しました。こんな状況でしたので、夏派遣に向けて慎重に派遣者を募集をし、開催に向けて入念に準備をしてきました。そのおかげもあって、なんとか派遣、開催を行うことができました。(ハプニングはありましたが、そんな場面でも関係者の皆さんの対応で乗り切ることができました。)

この一年を振り返ると状況が大きく改善されてきたと感じます。先行きが不透明に感じられた年度初めとは雰囲気も大きく変わり、今年はしっかりとポストコロナの第一歩を踏み出したという実感を持っています。プログラムに参加した子供達の自信に溢れ、楽しそうな笑顔がそれを表していると感じました。





CISV Japan  
Building global friendship

# CISV日本協会ニュース2024

## 2025JAM開催報告

運営委員長 橋上浩子



2024年10月12日(土)～13日(日)の2日間、国立オリンピック記念青少年総合センターで「2025JAM」が開催されました。オンライン参加者を含む95名が参加しました。本年からCISV日本協会の組織が改変され、JAMは各支部担当理事と運営委員長が運営を担う形になりました。例年の全体会での報告形式も、各担当理事から各部会・支部についての報告に変更され、参加者の皆さんに各理事と部会や支部との関係性がより深く伝わったのではないかと思います。

12日の午後は、部会別の集まりや全体会(理事、部会、支部からの報告)を行い、夕食後にはトレーナー研修(トレ研)、ためになるワークショップ、JB部会主催の4支部合同行事に関する意見交換など、盛り沢山のメニューでした。全体会は今年度もJB部会の司会進行とアクティビティで始まり、最後は笑顔の集合写真で締めくくられました。翌13日は、JB部会、STC部会、LTC部会の研修が行われ、さらに各支部からの参加者が集まって「各支部の運営に関する本音トーク」が実施されました。

「ためになるWS」では、2024年3月に開催されたAPRWのTTT(Train the Trainers)セッションの内容の一部を支部運営に関わっている皆さんに体験していただきました。TTTとは何ぞや・・・の説明から始まり、CISVの理念を再確認するアクティビティを行った後、「エッセンシャル」「ステップアップ」「ユースミーティング」に分かれて、実際のプログラムについて考えるアクティビティを行いました。各支部運営をしている皆さんは実際にプログラムを考える機会はありませんので、CISVの理念? プログラム?? どうやって形にする??? の連続だったと思います。この体験を通してリーダー/ディレクター/スタッフが意図することを更に理解し、派遣や受け入れに関してお互いに力を合わせることが出来るのではないかと感じました。

「支部運営に関する本音トーク」は各支部に分かれて、それぞれの課題・問題点を洗い出し、発表し、他支部を含めて意見交換をする場となりました。支部運営に関わる人材の不足、日本大会開催時の補助金増額の要望、支部で作成したグッズの在庫管理

の仕組み、CISVのピンバッジ作成の希望などの意見がありました。今回のワークショップは初めての試みでしたが、各支部から様々な意見が出てきました。各支部で運営に携わっておられる方、特に派遣・受入れに関わってくださる方々の思いを共有できたのではないかと思います。どなたもボランティアでの活動を理解してのCISVへの参加ですが、時には「ちょっと大変だな」「これお願い出来るかな」など、気持ちを吐き出すことも必要だと感じました。率直な気持ちを共有することが、創意工夫に繋がることも有るのだと、今回の「本音トーク」を通じて感じています。私の困り事・委員会の困り事・支部の困り事をみんなで考えるきっかけになり、仲間意識が強まったと思います。また、各支部総務委員会や財務委員会の方々のJAM参加の必要性も感じました。

2026年度のJAMは関西支部が担当されます。次回も笑顔でお会いできることを楽しみにしています。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。



CISV日本協会ニュース第17号

発行日:2025年1月10日

編集責任者:広報プロモーション部会

発行:公益社団法人CISV日本協会

〒162-0822 東京都新宿区下宮比町2-28-218

Tel:03-5261-8560 | Fax:03-5261-8540

Email:japan@cisv.org | LINE ID: @cisv

公式ホームページ: www.cisv.jp

Facebook: www.facebook.com/cisvjapan